

甲府ってどんな場所？

細長くて地形の変化に富む甲府



地図でみると山梨県の真ん中にすうっと線を描いたように細長く位置する甲府市。縦（南北）は41.5km、横幅（東西）は15.3km、面積は212.41km²です。移動していると、気づいたら隣の市町に入っている感じのこじんまりとした大きさです。

山と盆地の部分がくっきりと分かれています。「甲府盆地」として有名ですが、甲府市が甲府盆地に占める面積の割合はそれほど大きくありません。最北部は秩父山地、南部は曾根丘陵と御坂山地の山がそびえています。



甲府で一番標高の高いところは2599mの金峰山山頂です。

山頂には五丈岩と呼ばれる高さ15mの巨石が鎮座しています。富士山をその先に見る姿は神々しいばかりです。



山からまちまである甲府の最も低いところは標高250mです。甲府駅にほど近い甲府市役所は標高261mに位置しています。参考までに東京都庁は標高37mです。同じフラットな場所でも気温や天気が違うのはそもそもの標高が違うからです。だって200mも太陽に近いんですから！



酷暑と底冷えする冬の寒さ



盆地特有の猛烈な暑さで夏は日差しがとても強いです。特に盆地の平地部では照りつける太陽を肌で実感します。周りを山に囲まれていて森林が多いので夏でも昼夜の温度差があります。標高が高いエリアの朝晩は夏でもひんやりです。冬はぐっと冷え込みます。晴れの日が多く積雪は

少ないです。空気が綺麗で山の輪郭がくっきりみえます。冬型の気圧配置が強まった時は北西の季節風が吹き、空気が乾燥します。「ハケ岳おろし」と呼ばれる冷たい強風が吹く日があります。ハケ岳から吹き下ろした強い風は北杜市、韮崎市、甲斐市を吹き抜け甲府まで届きます。

風が吹く日は自転車や歩くのも大変です。田畑がある場所は土埃が立つようなこともあるそうです。甲府の北部、



東部、中央部などではハケ岳おろしを感じることは少ないですが西側は感じる人が多いです。そんな風が吹いた日はとってもきれいな南アルプス山脈の稜線が見れます。

天気も植生も違う変化に富む甲府



山は雪が降っていてもまちなかは雨。雨さえ降らない時もあるくらい、小さな甲府市のなかでもお天気が違います。標高によって天気も自然の植生も、ライフスタイルも違いますから見える景色の違いがあります。それが甲府のバラエティ豊かな自然・生活環境を作っています。写真は甲府の最北端のまち黒平町。標高は1000m。車の往来が少ない場所です。ここは盆地より一か月くらい遅れて春がきます。そして夏はとっても涼しいです。



山からまちまである甲府。そこを取り囲む自然環境。
暑さ寒さも、風も、照り付ける太陽も、昼夜の寒暖差も、
野菜や果物の甘さなど、おいしい実りにつながってきて
豊かな景色を我々に見せてくれるのです。

自然から多くの恩恵を受ける山の都甲府

